

2007年(平成19年)9月中間決算概要

2007年11月5日

クラレトレーディング株式会社

問合せ先：総務部長 山口 信義

TEL(06)6348-9305

(1) 当中間期の事業の経過およびその成果

国内景況は、原燃料価格の一段の上昇による影響がありましたが、輸出を中心に企業収益が引き続き好調であったことに加え個人消費も堅調で、全般的に緩やかに拡大しました。

このような状況の下、当社におきましては、繊維関連が減収、増益、化学品・化成品関連が増収、増益となった結果、全体として前年同期に比べ増収、増益を確保致しました。

- ・ 売上高は613億5千3百万円、前年同期比+21億6千5百万円、+3.7%の増収。売上高構成比では、繊維比率46.0%、化学品・化成品比率54.0%となりました。
- ・ 営業利益は13億4千4百万円(前年同期比+1億9千7百万円、+17.3%の増加)、経常利益は13億5千万円(前年同期比+2億1千3百万円、+18.8%の増加)となりました。
- ・ 特別損失の計上はなく、当期純利益は7億6千7百万円となりました。(前年同期比+1億2千万円、+18.7%の増加)

【業績】

(単位：百万円)

	当中間期 (07.4-9月)	利益率	前年中間期 (06.4-9月)	利益率	前年同期比	
					増減額	増減率
売上高	61,353		59,187		+2,165	+3.7%
営業利益	1,344	2.2%	1,147	1.9%	+197	+17.3%
経常利益	1,350	2.2%	1,136	1.9%	+213	+18.8%
当期純利益	767	1.3%	646	1.1%	+120	+18.7%

以下「 」の中の名称は(株)クラレの商標です。

(2) 営業の概況

< 繊維関連 > (減収、増益)

売上高は282億円。前年同期比 12億円(4.1%)

(衣料)

- ・ ユニフォーム分野では、二次製品販売が拡大し増収となりました。
- ・ スポーツ分野は、学校体育衣料、スポーツアパレル向けとも順調に拡大し増収、差別化素材並びに二次製品OEMの拡大が寄与しました。
- ・ 婦人・紳士分野は市況低迷により減収を余儀なくされました。

- ・ ブラックフォーマル分野は、順調に推移しました。
- ・ 輸出テキスタイルは、欧州向け中東向けとも堅調に推移しました。
- ・ カジュアル分野は、低採算、不効率な取引を見直した結果、大幅減収となりました。

以上の結果、衣料事業は減収ながら、増益となりました。

(その他繊維関連)

- ・ 「クラベラ」を中心としたメディカル関連商品、靴資材が順調に拡大し、ワイピング、自動車関連資材等も堅調で、増収となりました。
- ・ 「クラリーノ」は衣料、靴用途の伸び悩みがありましたが、学童物が堅調に推移し増収となりました。
- ・ 産業資材では好調な国内景況を背景に、引き続き自動車関連ゴム資材および電池セパレーター用ビニロン等が堅調に推移しました。

以上の結果、その他繊維事業は、増収、増益となりました。

<化学品・化成品関連> (増収、増益)

売上高は331億円。前年同期比+33億円(+11.3%)

(化学品・化成品)

- ・ 耐熱性ポリアミド樹脂「ジェネスタ」は、鉛規制強化を背景に国内外から電子材料用途で旺盛な引き合いがあり堅調に推移しました。
- ・ 溶剤関連は、プロピレン系溶剤を中心に増収となりました。
- ・ メタアクリル樹脂は導光板用途が拡大したものの、P T V前面板の撤退影響等による減販が響き減収となりました。
- ・ イソブレン関連では、熱可塑性エラストマー「セプトン」の需要が堅調に推移しました。
- ・ ポパール関連は、樹脂販売が堅調であったことに加え、ビニロンフィルムが順調に拡大し、増収となりました。
- ・ 「エパール」フィルムは壁紙用が順調に拡大、食品用途等も堅調に推移し増収となりました。
- ・ 環境関連は、活性炭が飲料用、浄水器用などで好調に推移しました。
- ・ 搬送用ベルトは引き続き自動車用途が堅調に推移しました。

(その他)

- ・ 放射線遮蔽装置は、病院向け衝立類が引き続き順調に推移しました。

(3) 年度業績予想(平成19年4月1日~平成20年3月31日)

(億円)

売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
1,240	28	28	15

以 上